

# 高等学校における『学び合い』の授業を通じた 教師の子ども観の変容に関する事例的研究

大塚 哲\*・武樋 走太\*\*・廣木 拓\*\*\*・  
伊藤 純樹\*\*\*\*・稲葉 雅也\*\*\*\*・上野 晴菜\*\*\*\*・西川 純\*\*\*\*\*  
(令和元年5月20日受付；令和元年11月29日受理)

## 要 旨

本研究の目的は、現在、高等学校でアクティブ・ラーニングが推進されていることに着目し、アクティブ・ラーニングの手法の1つである『学び合い』を実践する高等学校教諭の変容を事例的研究として明らかにすることである。『学び合い』の3つの観点のうち、「子どもたちは有能であるという『子ども観』」に着目し、分析を行った。その結果、『学び合い』を行うことで教師の子ども観が変容することが明らかになった。

## KEY WORDS

High school高等学校, Manabiai『学び合い』, Children's Perspective子ども観, Change of teacher教師の変容

## 1 問題の所在と本調査の目的

文部科学省(2016)は、子どもたち一人一人は、多様な可能性を持った存在であり、多様な教育ニーズを持っており、そのような子どもたちの能力育成の手立ての一つとして、アクティブ・ラーニングを挙げている<sup>1)</sup>。

ベネッセ教育総合研究所(2015)では、「アクティブ・ラーニングの実施率は、小学生→中学生→高校生と低下している」としている<sup>2)</sup>。

西川(2014)は、アクティブ・ラーニングの手法の1つである『学び合い』を提唱している<sup>3)</sup>。『学び合い』とは、「多様な人と折り合いをつけて、自らの課題を達成する場であるという学校観、子どもたちは有能であるという子ども観、教授は子どもたちに任せるべきであるという授業観」の3点からなる学習方法である。本研究では、この3つの観の中の子どもの観に着目した。

谷内(2009)は、『学び合い』初期の小学校教師は、授業に不安を感じているが、回数を重ねるにつれて『学び合い』の授業の有効性を実感するように変化し、役割も指導者から支援者へ変化したと述べている<sup>4)</sup>。

また、山田ら(2007)は、小学校において、子どもの学びが活性化している担任の教師は、子どもの有能性を実感し、子どもに対して受容的に接していることが明らかになったとしている<sup>5)</sup>。

しかし、高等学校教師の『学び合い』に関する子ども観の研究はない。現在、高等学校でもアクティブ・ラーニングが推進されている中、『学び合い』に関する高等学校教師の子ども観に関する研究は、高等学校教師がアクティブ・ラーニングを取り入れていく上で有効だと考える。

学級担任制、教科担任制どちらも、教師が行う授業回数はあまり変わらない。谷内(2009)は授業の回数に着目しているため、生徒の発達段階に関しても関係はないと言える。我々は、谷内(2009)の研究と同様な結果となると推論する。

そこで本研究では、『学び合い』に取り組み始めた教諭5名に『学び合い』の授業に関するアンケート調査、インタビュー調査を行い、『学び合い』に関する子ども観の変容を事例的研究として明らかにすることを目的とする。

## 2 調査研究の方法

### 2. 1 調査対象の選定

昨年度から『学び合い』を実践している高等学校教諭3名(以下、S高等学校の教諭をそれぞれA教諭、B教諭と

\*富山県氷見市立久目小学校

\*\*新潟県南魚沼市立城内小学校

\*\*\*群馬県藤岡市立小野中学校

\*\*\*\*専門職学位課程

\*\*\*\*\*学校教育学系

し、T高等学校の教諭をC教諭とする)と、本年度から『学び合い』を実践している高等学校教諭2名(U高等学校の教諭をそれぞれ、D教諭、E教諭とする)を選定した。

## 2. 2 調査依頼時期と依頼内容

本研究は、平成29年9月～平成30年12月にインタビュー調査を依頼した。内容は以下の通りである。

「表1 インタビュー調査の内容」

1	『学び合い』を始める前に不安に感じたことは何ですか。
2	生徒の知識の定着度合いはどうですか。
3	『学び合い』を始めてみて、不安はありますか。
4	『学び合い』を始めて良かったことは何ですか。

谷内(2009)の研究では、実践者の意識面の変容に関する分析を行っていた。本研究では、高等学校教諭にどのような変容があるかを明らかにするために谷内のアンケートを参考に、表1のインタビュー内容を設定した。

## 3 結果

### 3. 1 A教諭に対してのインタビューについて

インタビュー調査で得られた会話例を以下に示す。

#### A教諭へのインタビューで得られた会話例1

『学び合い』を始める前に不安に感じたことは何ですか。

A.「課題のやりかたで。…(中略)一緒にやっても、無理は無理なのですが、間違っった発音の子とか…(中略)間違っったまま練習してっていうのに気付かない。」

上記の下線部の発言から、A教諭は生徒だけでは正しい知識を身に付けることができないのではないかと不安に感じていることが分かる。

#### A教諭へのインタビューで得られた会話例2

『学び合い』を1度辞めてしまった理由を教えてください。

A.「理解するのが難しいっていうよりも、覚えるところがいっぱいだったので。うーんまず生徒で『学び合い』をするよりは、見ればわかるっていうか。なので、それだったら最終的に全員で確認して、練習した方がいいのかと思って、解説の時間を入れてみた。」

上記の下線部から、「最終的に全員で確認して、練習した方がいいのかと思って、解説の時間を入れてみた。」と発言していた。このことからA教諭は『学び合い』を1度中断してしまった理由として、理解する事が難しいのではなく、生徒達だけの正しい知識の定着に疑問を感じていたことへの不安から『学び合い』を中断していることが明らかとなった。

#### A教諭へのインタビューで得られた会話例3

『学び合い』を再開したきっかけを教えてください。

A.「解説入れてみて、やっぱり(『学び合い』と講義形式の)いい所とりって難しいんだなって思って。」

A.「(解説)時間の調節がやっぱりうまくいかなくて。」

A.「あとは解説をしていた時は理解が簡単なので、その場で解説してもあの、多くの子が理解してくれるかなって思ったんですけども、次のところからは説明しても難しいのでついてこれない子がたくさんいるかなって思ったので、それなら書いて渡してそれぞれゆっくり理解してもらった方がいいかなと思って。戻しました。」

上記の下線部より、ハイブリッド型授業の課題がみえ、ハイブリッド型授業の限界を感じてきたため、『学び合

い』へと授業スタイルを再び戻したということが明らかとなった。

#### A教諭へのインタビューで得られた会話例 4

『学び合い』を始めて良かったことは何ですか。

A. 文法のあの、結構、分厚い本があるんですけど、…(中略)前は成績上位の生徒が気になって見るって感じだったんですけど、今はあの、ほとんどこの位(成績中位)の生徒もあの、みんな自分で辞書とか文法書とかを使うようになったのでよかったなと思いました。

A. 生徒の様子が前よりもよく見られるようになって。あの、こういうところが間違うんだなっていうのが良く見えるようになったんだなと思います。

上記の下線部より、A教諭が『学び合い』を始めてよかったことの事例として、成績上位以外の生徒達も教具を使用することになったことや、生徒たちの様子を以前よりも見取ることができるようになったことが言える。

以上の結果から、会話例それぞれの下線部に注目すると、A教諭は『学び合い』を行う際に、生徒たち自身で学習が成立するのか不安に思っていた。生徒たちが教え合う姿を見られたこと、以前より生徒の様子がよく見られるようになったことで、A教諭は自身の子ども観が変容したことが明らかになった。

### 3. 2 B教諭に対してのインタビューについて

#### B教諭へのインタビューで得られた会話例 1

『学び合い』を始める前に不安に感じたことは何ですか。

B. 我流にならないかなっていうのは、…(中略)生徒たちが、自分で考えてやるわけだけど、…(中略)もし、間違ったような捉え方をしたら嫌だなっていう。…(中略)そういう子が増えるのかなっていう、そういう心配みたいなのがあったと思います。

上記の下線部より、B教諭は『学び合い』を始める前の不安として、学習の成立に関する不安を挙げている。このことから、『学び合い』を始める前の不安はA教諭と同様であることが明らかとなった。

#### B教諭へのインタビューで得られた会話例 2

『学び合い』をやって良かったことは何ですか。

B. 最初の不安につながるんですけど、対して不安に思わなくてもやるもんだなと。そういうのは感じましたね。なんかその最後の微調整をしてあげたいなと最近思います。ある程度彼らでこう、形になっている。

上記の下線部より、学習が成立することに対しての不安は以前よりなくなっていることが言える。

以上の結果から、B教諭もA教諭同様に『学び合い』の回数を重ねることにより、子どもたちの姿がよく見えるようになり、B教諭の子ども観が変容したことが明らかになった。

### 3. 3 C教諭に対してのインタビューについて

#### C教諭の『学び合い』を始める当初についての会話例 1

『学び合い』で不安だった点を教えてください。

C: 今までと全く違うやり方をやっているの、教師の仕事として、これでいいのかなっていう、不安というか、なんかもやもやした気持ちがありましたね。

C教諭は、『学び合い』の授業形式について不安をもっていることが明らかになった。

#### C教諭の学校の生徒の印象についての会話例 2

C: 寝ている姿だったり。ただでさえモチベーション低いからね。今までの学校だとそのモチベーションを上げるのに、進学があったんだよね。

子どもたちの一斉授業を受けている時の姿から、一斉授業では困難を感じていることが明らかになった。

### 『学び合い』を始めた時の印象についての会話例 3

A：実際、『学び合い』をやられて、印象は変わりましたか。

C：『学び合い』の印象ねえ、こういう授業もあるんだな、(中略)寝ない生徒は寝ないし、まあ活動してる、まあ何かしらの形で教育活動に参加している、まあ授業の形としては、ありなんだろうな。

一斉授業の時は気になっていた子どもが『学び合い』の授業では教育活動に参加している姿から、『学び合い』の有効性を感じていることが明らかになった。

### 9月時点での『学び合い』の教諭の授業中の子どもの様子についての会話例 4

A：アンケートの9月の項目に気になる子に目がいくと書いてありますが。

C：やっぱりその全体講義型の授業の時は、寝ている子にすごい目が行くんだよね。寝てる子とか集中が続いていない子に目が行ってしまって、で『学び合い』になってもそれはやっぱり続いてたな。

C教諭は、一斉授業の際に気になっていた授業に集中していない子に、『学び合い』を行った際も同様に着目していたことが明らかになった。

### 10月時点での『学び合い』のC教諭の授業中の子どもの様子についての会話例 5

A：生徒が周りや時間を見て動くようになったと10月の段階に書いてありますが、一番最初はできないものでしたか。

C：チャイムなる前に席につけてというのが一番最初。(中略)周りの雰囲気を感じ取るなりなんなりすると、ちゃんと片付けて、言わなくても片付けて、ようやくできるようになってきた。

『学び合い』を始めた当初は出来ていなかったことが徐々に出来るようになってきた子どもたちの姿を見て、子どもたちの成長を感じていることが明らかになった。

### 11月時点での『学び合い』のC教諭の授業中の子どもの様子についての会話例 6

C：特に上位層のね、いつも教えている子に対して、ちゃんと見ろ、お前たちが崩れたら、お前が教えてるやつ皆崩れるんだから、というような感じで、今やってるなあ。

9月の時点では、気になる子どもに着目していたC教諭が、11月の時点では上位層の子に着目していることが明らかになった。

以上のことから、一斉授業では寝ている、集中していない生徒が、『学び合い』では学習活動に参加していることから、『学び合い』の有効性を感じていることが明らかになった。また、C教諭は『学び合い』授業の中で着目する点が、寝ている、集中していない子から、授業中の生徒の様子から、上位層の生徒に変化したことが明らかになった。

## 3. 4 D教諭に対してのインタビューについて

D：ほんとに（教師側が）何もしない時に、（生徒たちは）ほんとにはできるのかっていうのは最初はずっと思っていた。

D：それ（以前の授業形式）は、半分生徒に預けつつも、半分こっち（教師側）が負担してるってことだね。だけど、それ（説明すること）を完全になくしたとき、ほんとにできるのかなっていうところがこの『学び合い』の中であった。

D教諭は『学び合い』の授業に対して本当に生徒たちだけで学習に取り組むことができるのかと不安を抱いていることが明らかとなった。

D：子どもたちだけでもいろいろできるんだなって（中略）、意外とここまで、こういうところもできるんだなって感じる部分がある。  
D：意外とできるなっていう、意外と放っておいても、（中略）意外とできるんだなっていう、うちの生徒に対してもそれは思った。

『学び合い』の授業を実際に行っていくにつれて、生徒たちだけでも取り組むことができると実感していることが明らかとなった。

以上の結果から、初めは生徒だけで課題に取り組むことに不安を感じていたが、『学び合い』の授業を行っていくにつれて、授業中の生徒の様子から生徒だけでもできると感じ、生徒の有能性を実感していることが明らかとなった。

### 3. 5 E教諭へのインタビューについて

E：15分くらい説明を入れて授業した時があったんですけど、（中略）奴らの話を聞くっていうのは、たぶん15分が限界だな。それ以上はもう寝ちゃうんだろうって。やっぱ、今までみたいはずっとしゃべってる授業はできない。

以上のプロトコルから、説明をいれた授業では生徒たちが寝てしまったり集中が続かなかったりするという不安を抱えていることが明らかとなった。

E：でもね、もう寝なくなったかなとある意味。なんかイキイキやってんだと思うとこれがいいのかなと。

E：子どもたちがどういう行動をするのかわからないので、ドキドキしながら見ていましたけど、結構やるじゃんと思いました。

以上のプロトコルから、『学び合い』の授業中に生徒の寝ていない姿や、学習に取り組む姿から、『学び合い』の有効性を実感していることが明らかになった。

以上の結果から、教師主導型の授業では、集中力が続かず寝てしまうと感じていたが、授業を重ねるごとに、寝なくなった、生徒だけでもできると感じることで、生徒の有能性を実感していることが明らかとなった。

## 4 結論

高等学校でも、『学び合い』の授業を実践することで教師の子ども観が変容することが明らかになった。我々の推論通り、谷内（2009）の研究と同様な変容をしていることから、学校段階、また学級担任制、教科担任制問わず、教師の変容は同じであることが考えられる。またそれは、子ども観に関する変容であると考えられる。

## 5 今後の課題

本研究では『学び合い』を実践した教師の子ども観が変容することが明らかになったが、教師の変容の裏付けには、生徒の変容があるとプロトコル分析からわかる。生徒の具体的な変容を明らかにしていく必要があると考える。

## 引用及び参考文献

- 1) 文部科学省「新しい学習指導要領の考え方－中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ－」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1396716.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1396716.htm)（閲覧日2017年12月29日）
- 2) 篠崎ら：「主体的・協働的な学びを支援する教員の実践理論への意識『学び合い』実践者へのフォーカスグループインタ

ビューを通して」, 2016

- 3) 西川純:「すぐわかる!できる!アクティブ・ラーニング」p.31, 2015
- 4) 谷内香織, 西川純:「『学び合い』授業における教員の変容に関する研究-『学び合い』導入からの長期観察を通して-」臨床教科教育学会誌, 第9巻第1号, pp.85-97, 2009
- 5) Ericsson, K. A. & Simon, H: Protocol 「*analysis-Verbal reports-Verbal reports as data, MIT*」 Press, 1984
- 6) 小林千鶴, 西川純:「子ども同士の『学び合い』を促す教員に関する研究」臨床教科教育学会誌, 第7巻, 第1号, pp.17-54, 2007



# “Learning Together” at High School: A Case Study of Teachers’ Changing Views of Children

OTSUKA Satoshi\* · TAKEHI Sota\*\* · HIROKI Takumi\*\*\*  
ITO Junki\*\*\*\* · INABA Masaya\*\*\*\*\* · UENO Haruna\*\*\*\*\* · NISHIKAWA Jun\*\*\*\*\*

## ABSTRACT

The purpose of this research was to focus on the active learning that is promoted at senior high schools, by conducting a case study on the transformation of high school teachers practicing “learning,” which is one active learning method. Among the three viewpoints of “learning from each other,” the research focused on analyzing “children’s ability is capable.” The results reveal that teachers’ views of children were transformed by the process of “learning together.”

---

\* Himi City Kume Elementary School    \*\* Minami-uonuma City Jonai Elementary School    \*\*\* Fujioka City Ono Junior High School  
\*\*\*\* Division of Teacher Profession, Joetsu University of Education    \*\*\*\*\* School Education